

## 第4回鳴門教育大学運営諮問会議議事要録

**日 時** 平成14年11月18日(月) 15:00～17:15

**場 所** ルネッサンスリゾートナルト 8階「マジイルーム」

**出席者** 井 内 慶次郎 委員 [(財)日本視聴覚教育協会会長]  
大 塚 公 委員 [大塚製薬(株)監査役]  
亀 井 俊 明 委員 [鳴門市長]  
桑 原 信 義 委員 [(株)徳島銀行相談役]  
高 木 弘 子 委員 [元 徳島県教育委員会教育委員長]  
高 倉 翔 委員 [明海大学長]  
野 原 明 委員 [文化女子大学教授]

**欠席者** 佐 藤 修 策 委員 [湊川女子短期大学長]  
中 野 重 人 委員 [日本体育大学教授]  
松 村 通 治 委員 [徳島県教育委員会教育長]

**陪席者** 溝上学長, 佐々木副学長, 藤原副学長, 田浦事務局長,  
高橋図書館長, 安好第1部主事, 田辺第2部主事, 村田第3部主事,  
西田運営評議会委員, 前田第5部主事, 齋藤学校教育実践センター長,  
石堂徳島県教育委員会企画調整班長, その他事務局職員

### 会 議

#### 1 開会

総務部長から会議の開会が告げられた後, 溝上学長から委員への再就任に対するお礼と, 本学の当面する諸課題に対し指導・助言を賜りたい旨の内容を含めた挨拶があった。

#### 2 委員紹介等

溝上学長から, 今回は佐藤委員, 中野委員, 松村委員が都合により欠席している旨の報告があった。

引き続き, 大学から陪席している教官及び事務局課長の紹介, 並びに今回は徳島県教育委員会の石堂氏が陪席している旨の説明があった。

### 3 資料確認, 日程説明

総務部長から, 配付資料の有無の確認及び日程説明があった。

### 4 議事

議事に先立ち, 総務部長から会長選出までの議事進行は溝上学長が行う旨の説明があった。

#### (1) 会長・副会長の選出について

溝上学長から, 運営諮問会議規則第6条の規定に基づき, 会長・副会長の選出方法について説明があった後, 委員の互選により会長に井内委員を, 副会長に桑原委員を選出した。

#### (2) 国立大学法人化, 再編・統合問題等, 当面の諸課題について

溝上学長及び総務部長から配付資料に基づき, 国立大学法人化, 再編・統合問題等, 当面の諸課題及び前回の会議以降の主な大学の活動状況等について説明があった。

#### 〔説明内容〕

鳴門教育大学の在り方について

- ・国立大学法人化への対応
- ・国立大学の再編・統合

鳴門教育大学の内部充実について

- ・教員養成・研修に対する教官の意識改革
- ・授業改革と学部・大学院のねらい

学部教育及び大学院教育の課題について

外国人留学生数の急増, 短期研修(JICA)複数開設について  
地域との連携の拡大について

#### 〈学長等からの説明に対する質疑応答〉

( § : 委員の発言,                    : 大学側の発言 )

§ 四国地区における教員養成大学・学部の再編・統合問題に関する現在の状況について, 具体的に説明願いたい。

本学の提案した四国教育大学構想は, 教育系専門協議会において他大学の同意を得られなかったため, 四国の教員養成を2大学で行う2極案について協議を進めることとなった。2極案は, 各大学とも大筋で合意しているものの, 教員養成担当2大学に対し3大学が手を挙げており, 現時点において3大学間での話し合いは決着していない。

§ 鳴門教育大学では大学院生による授業評価を実施しているが、より高度な実践的指導力の向上を目指すというポイントから見た場合、どのような評価がなされているか説明願いたい。

大変難しい問題であるが、基本評価については教官及び学生も必ずしも十分に理解している状態ではないため、教官の中には評価が悪かった時には評価書を出さないという実態もある。今後、極力なくしていきたいと思っている。客観的な資料としてデータ的に行われているわけではないが、多くの教官が授業評価を実施することによって、これまでの自身の授業を反省し、学生との相互交流に基づく授業展開ということに注目し努力しており、やがては、そのことが授業の質的な改善に大きく影響するであろうと思われる。

§ 大学院生の確保について、14条特例、大学院休業制度等の積極的な活用はそれほど実施していないように思える。今後の対応についても説明願いたい。

大学院休業制度の状況については、全国の教員養成系大学で100人程度が活用しており、本学では2、3人程度である。短期及び長期履修については、今後、開発していくマネジメントプログラムや管理職養成プログラムでは、1年で修了できるような体制を整えたり、休業制度に限らず、勤務の都合その他の理由によって、3年、4年という在学期間を認めていくことも検討している。

§ 学部の入学状況で、平成13年度に志願者が特に多かったのはなぜか。

特に、この年度に大きな変革があったわけではないが、受験生の動向は、前年度に倍率が低かったところへ集中する傾向があるためではないかと思う。

§ 学部、大学院とも就職率がよくなりつつあるが、今後、これがある程度定着すると考えているのか。

就職率の向上については、昨年度から学生に対するガイダンス等を特に多く開催しているわけではないが、学生任せにせず、教職員が力を合わせて全学的に取り組んだ結果だと思う。また、近年、各県の採用人数が増えたことも影響していると思う。

§ 外国人留学生の受入状況も、今年度は従来より数字が上がっているが、今後も増えていくと考えているのか。

外国人留学生については、全国的にも増加の傾向にあり、本学でも現在58人受け入れている。かつてない人数であるが、大きな理由としては、内蒙古から20人の研究

生を受け入れたことである。その他、外国の大学との共同研究の実施、学術交流協定締結校の増加等も影響していると思う。

§ 教員インターン制度については、非常に効果を上げていると思う。徳島県の教員採用試験合格者だけでなく、他府県も含めた合格者全員にこの制度を適用してはどうか。

昨年度は初めての試みであったため、徳島県の教員採用試験合格者だけに適用した。現在、鳴門市教育委員会と協議中であり、今年度は他府県の合格者も含めたかたちでこの制度を実施することになると思う。鳴門市教育委員会も非常に好意的に取り組んでいただいている。

〈鳴門教育大学の内部充実について〉

§ 入学定員の充足については、民間的な発想でいうと、常に合格者数と入学者数に差があることがわかっているのだから、これを計算に入れ合格者を決めていく必要があるのではないかと思う。バランスシートやキャッシュフローという考え方は、法人化していない現状においても実施する必要があるのではないか。

全国の教員養成系大学・学部は、同じような生き残り作戦を当然考えるだろうから、大学の特徴・特色を出すこと、小さくともピカッと光るところがあるような教員養成を考える必要があるのではないか。奇想天外とも言えるような、他大学とは違うやり方を考えるべきである。

§ 大学の個性として、例えば、海外の教員が不足している国から入学定員の3分の1程度の留学生を受け入れ、教員として育成し、帰国させるようなシステムを考えてはどうか。その際、例えば留学生を4年間受け入れるとすれば、日本の大学を卒業した者を4年間派遣し、本国の学生の指導に当たるといったバーター的なシステムを大学レベル、又は国レベルで考えてみてはどうか。

§ 教員養成系大学・学部の再編・統合問題については、全国的にも進展していないような気がする。むしろ専門職大学院について、非常に中身のいいものを作ることで頑張るのも一つの考え方だと思う。

コアカリキュラムの検討に当たっては、教員養成のモデル的なカリキュラムになるよう努力願いたい。

遠隔教育については、教育の方法としては大変柔軟なやり方あるいは今日的なやり方で結構かと思うが、思い切って通信制の大学院を設置するようなプランにまで踏み込んでどうか。

大学評価・学位授与機構の大学評価は作業的には大変だと思うが、やらされているというより、むしろ平成16年度からの本格実施に向けて積極的に提言するという方向に

考えればよいと思う。

教育職員免許法の改正及び教育公務員特例法の改正等に伴い、教員免許制度の弾力化への対応、10年目研修の義務化に対して具体的に大学としてどう対応するのか、また、指導力不足教員の問題に大学としてどう対応するのかといったようなことについても考える必要があると思う。

§ 鳴門教育大学を特色ある大学として生かしていくために、鳴門教育大学の持っている特質を考えると、充実した教育環境が整備されていることが挙げられる。また、鳴門市との間で強い信頼関係と相互協力関係が築かれており、すでに大学と市との間で共同研究を行っていることも特筆すべき事項だと思う。

鳴門市も、教育施設として保育所から市立高等学校まで設置されており、教育環境は非常に充実している。これはあくまでも私案であるが、第一段階として鳴門市から保育所、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校を、大学からは附属幼稚園、附属小学校、附属中学校及び附属養護学校を現物出資し、保育所から高校まで、さらには養護学校まで持った附属校のエージェンシーを設置することを検討してはどうか。解決しなければならない課題はたくさんあると思うが、鳴門教育大学と鳴門市の特色を合わせるということで検討いただきたい。

§ 附属学校の問題は非常に重要であるが、この運営諮問会議としては、今後の大学と市との議論を踏まえ、大学からの諮問に基づき審議させていただきたい。

§ 最近の学生は、専門教科はともかく、総合的な教養が足りないように思う。大学に何らかの特色を持たずということであれば、鳴門教育大学を卒業した教員は豊かな教養を持っているということも、一つの大きな特徴になるのではないかと。豊かな教養を持つことが授業の充実にもつながり、また、ホームルームあるいは最近導入された総合的な学習の時間等に役立つのではないかと。総合的な教養教育に力を入れていただきたい。

§ 新聞のインタビュー記事で、「変化には必ず退化劣化が忍び込む。これに気が付かないものはみんな滅びている。今の日本には大変な退化劣化現象が起こっている。それを食い止めなさい。」というのを見てショックを受けた。今日、改革、改革で大学がこれだけ忙しいことはないと思うが、明治以来の日本の大学が大変化するときに、誰かが退化劣化するところを見ていないと危ないと思う。本来やるべきことをきちんとやりながら改革するべきである。鳴門教育大学も初心忘るべからずで、頑張ってください。

以上のような意見等が出された後、井内会長から、今回の各委員からの意見等は本学の当面する諸課題を解決する中で反映してほしい旨の要望が出され、これに対し、溝上学長から課題解決へ向けての決意と感謝の言葉があった。

## 5 閉会

井内会長から、第4回運営諮問会議の閉会が告げられた。

以 上